

令和 7 年度第 1 回在宅医療介護連携会議 全体会まとめ

全 体 会	<u>議題 1. 厚生労働省在宅医療・介護連携推進事業の手引き改訂について</u> 令和 7 年 3 月に厚生労働省 在宅医療介護推進事業の手引きが改訂された。 1. 手引き Ver. 4 の主な改訂点 ①認知症・感染症・災害時対応の重要性の明確化 Ver. 3 で触れられていた「認知症対応」「感染症発生時」「災害対応時」について Ver. 4 では、より独立した項目として位置づけられ、連携の重要性が強調されている。 ②切れ目のない在宅医療・介護の提供体制の整備 Ver. 4 では、保健医療部局との連携を明確化し、第 8 次医療計画に明記されている。当事業との連携は県と情報を共有しながら進めていく。 ● 在宅医療連携の「拠点」整備 ・他職種協働で包括的・継続的な医療を提供する拠点の設置 ・高齢者や障害者も含めた連携体制の強化 ・第 8 次保健医療計画との関連 ・市町村に拠点を位置づけし、地域の医療・介護・福祉関係者会議や連携体制の構築を県や、中核医療機関と連携して推進 ● かかりつけ医機能報告制度の導入 慢性疾患を持つ、高齢者などへの継続的な医療提供を確保、強化するため、地域におけるかかりつけ医の機能整備を制度化 ③流山市の対応状況 【認知症に関する支援】 ・認知症施策推進事業を展開 ・「認知症安心ガイドブック（ケアパス）」の作成・配布 ・認知症の人との家族への一体的支援 ・認知症月間での普及啓発活動 【感染症発生時の対応】 ・情報システムの活用を推進し、各事業所へシステムアカウントを付与 ・介護保険サービス事業所における事業継続計画（BCP）の取り組み推進 ・事業所を対象とした感染症に関する研修会の開催等 【災害時の対応】 ・地域支えあい活動の推進 ・有事に備えた個別避難計画の作成 ・在宅療養者への支援体制構築を強化し、今年度の事業計画に新たに盛り込む ・福祉政策課も在宅医療連携会議に参加し、全体で体制構築を推進していく <u>議題 2. 令和 7 年度事業計画及び取り組みについて</u> ①令和 7 年度事業計画の改定案について 厚生労働省 在宅医療介護推進事業の手引き（Ver. 4）の追加内容との連携について 【認知症】
-------------	--

「困難ケースの支援」、「認知症初期集中支援チームの会議開催」等の項目で反映済。新たな加筆無し

【感染症発生時】

事業所 BCP への取り組みとして記載済み。文言が分かりにくかったため表現を見直した

【災害発生時】

感染症と同様に事業所 BCP への取り組みが有効

「地域支えあい活動」「個別避難計画の作成」など福祉政策課を中心に推進中。医療・介護専門職の意見を踏まえ協議することが重要なため、新たに「災害項目」を事業計画に追記した

→令和7年度事業計画は、厚生労働省 在宅医療介護推進事業の手引き (Ver. 4) に即して、既存の内容に反映されている事項については加筆せず、文言の見直しや、災害対応項目の追加により、実効性を高める方針

②災害時対応の体制構築について（福祉政策課）

当事業の対象者に向けた災害発生時の取り組みについては、流山市福祉政策課が中心となり推進している。

【流山市の災害対策の基本方針】

ハザードマップ上、流山市は、災害時、落ち着いて行動のできる地域が大半を占めている。安全と判断できる場合は、在宅避難を推奨している

【地域支えあい活動】

地域と名簿を共有し、日常からの見守りや災害時支援を目的としている名簿がなくても地域での声掛け、見守りを促進。必要時は福祉専門職と連携

【救急情報カード】

- ・緊急時に備え、必要事項を記載し、冷蔵庫等に保管
- ・地域・ケアマネ等と情報を共有することを推奨
- ・救急情報カードに生活シートを追加し、避難計画にも活用可能

【個別避難計画の作成】

主な対象者

- ・要介護3～5の高齢者
- ・重度の身体障害・精神障害・医療的ケア児など
- ・自力での判断、避難が困難な方

本人や家族での作成が困難な場合は、ケアマネ、相談支援専門員が支援。地域・自治会単位で個別避難計画作成、避難訓練も実施予定。

【福祉避難所の整備状況】

流山市内に21か所設置している。高齢者施設との協定から障害者施設にも拡充している。

障害に応じ、一般の避難所では対応できない、環境になじめない等いろいろなケースが想定できる。知的障害者、知的障害児、医療ケア児の受け入れに関し直接避難できる場所を確保している。電源が必要な場合、福祉政策課、市役所の公用電気自動車、ポータブル蓄電池等を備えている。

【今後の検討課題】

計画を災害時にどのように共有し、どのように活用するかがより大きな課題。特に以下の点を議論、検討したい。

- ・安否確認の実施体制
- ・福祉避難所への移送手段と役割分担
- ・医療との連携方法

委員意見

・訪問看護連絡会

訪問看護連絡会で個別避難計画について情報共有したところ、各事業所も関心を持っていた。日常業務が多忙で、情報収集に時間を取ることが難しいという課題がある。

災害時支援者自身も被災する可能性がある中で、市内共通の情報フォーマットを活用し、慣れておくことで、冷静な対応が可能となる。

ケアマネ、支援相談員、生活に関わる訪問介護員が情報共有し連携していくことが重要と考える。

・災害支援経験者

能登地震の支援に入り、紙の名簿が情報混乱を招いた経験がある。他自治体等が支援に入った時、情報管理体制が整っていないと混乱してしまう。災害時には、デジタルで情報を共有できる体制の整備が必要。行政のネットワークに依存せず、インターネット、スマホを活用した安否確認などのツールも必要ではないか。

(福祉政策課)

災害時、紙の情報も大事であるが、デジタル化は不可避と考える。流山市では、今年度、被災者台帳、罹災証明書をデジタル化し、要支援者の情報と連携させる方針。

・ケアマネ連絡会

総会で、個別避難計画の話を共有したところ前向きな発言が得られた。

現在、市内ケアマネ連絡会の登録者は180名。連絡会や、ホームページで情報発信を行っている。ケアマネを積極的に活用してほしい。

・福祉避難所の受け入れ施設関係者

福祉避難所として協定を結んでいる。大型蓄電池、段ボールベットを5台備えている。

限られた職員数で入所者のケアを行うのが精いっぱいであり、外部からの避難者への対応は非常に厳しい。医療的ケア児、重度のケアが必要な避難者は、家族同伴でなければ対応困難。食料等の備蓄も避難者に分け与える余裕はない。実際に避難してくるのは、人工呼吸器、在宅酸素・痰吸引など医療的依存度の高い方が中心となると想定している。一方で、元気な近隣住人が避難してくるケースもありうると考えており、現実的なことを考えると非常に不安である。

(福祉政策課)

福祉避難所のスペースは提供してもらっているが、「誰が運営するのか」「物資をどのように届けるのか」等運用面の課題が大きい。今年3月に避難所運営マニュアルを作成した。運営にはボランティア、専門職の協力が不可欠。今後、多職種・地域連携による運営体制の構築が必要と考える。

令和7年度第1回会議 各部会の討議まとめ

多職種連携・体制構築	病診施設連携班	1. 在宅における看取り (1)症例検討会の実施 目的：市内4圏域で在宅看取りを支える体制づくりを目指す。 開催予定：令和7年度8月、10月、11月、令和8年1月に開催予定 内容：ヘルパーも参加しやすい「老衰」「精神的支援が必要なケース」を中心に実施 (2)在宅看取りに対する課題(アンケート結果) ・急変時対応の難しさ →進行が速い場合は、家族・関係職種が状態に追いつけず情報共有がカギとなる ・受け入れ体制の課題 →ショートステイでは往診医が入れないため受け入れが困難 2.施設における看取り (1)ショートステイでの看取りの現状 ・主治医が入れないためショートステイでの看取りは困難。入所に切り替え対応することが多い ・独居者の在宅看取り希望も多く、地域全体での支援体制の整備が必要 ・ショートステイでは「ガン末期」以外の往診ができない点も課題 (2)高齢者住まい看取りケア研修会 日時：令和7年7月2日(水)10:00 から 12:00 会場：中央公民館 講義室 (3)意思決定支援・家族とのコミュニケーション研修 令和6年度アンケートより 「本人の意向確認」「家族との意見のすり合わせ」「コミュニケーション」など 要望として実際の看取り経験者や人生会議【ACP】に詳しい講師、医師の講義を求める声が多数。 令和8年度に実施予定。講師選定、開催方法を検討。
------------	---------	---

研修・啓発部会	専門職研修班	1.令和7年度第1回介護と医療をつむぐ会について テーマ:「ICTツールを活用した多職種連携について」 目的:ICTツールによる多職種間の情報共有の成功事例を学び、各場面での活用のヒントを得る (前半) カナミックを使った好連携事例の紹介 (後半) 事例をもとにグループワークを実施 ・多職種連携・情報共有における課題と工夫 ・ICTツールの利点・欠点 ・事業所での活用に向けた働きかけなど意見交換 今後の展開:9月9日(火)にカナミックの研修会(デモ機使用)開催予定。新規登録者の獲得を目指す。 2.第3・4回介護と医療をつむぐ会(案) テーマ案①よりそいサポートセンター活動報告と事例紹介 困難事例の支援について考え方取組のヒントを得る →ケアマネ研修会との内容重複を避けるため次回再検討 テーマ案②災害時の支援 在宅医療介護連携会議で災害時対応が課題となっている。 消防も交え、要配慮者支援の意見交換を行う →次回検討 3.第2回つむぐ会(市民公開講座)について 市民啓発班と合同開催 内容:もしバナカードを使い、人生の終末期に大切にしたいことを考える機会を提供する。 ゲームを行うにあたり、当日ファシリテーターが必要なため、市民啓発班・専門職研修班委員に「もしバナゲーム」を体験してもらった。 (感想) ゲームをする際参加者の心理状態への配慮が必要。 自身の看取り経験からカードの言葉に対し深い思いがある。 日々を大切に、後悔のない人生を送りたい。
	市民啓発班	1.おうち療養情報紙・広報ながれやまについて ①おうち療養情報紙 表面:市民公開講座の内容(人生会議【ACP】)の紹介を掲載 裏面:人生会議に関連した記事を作成予定。救急情報カードの定期更新・定位置保管の呼びかけも掲載予定 ②広報ながれやま ・市民公開講座(人生会議【ACP】)と関連付けた内容を掲載 ・掲載は今年度1回のみ。8月21日号に市民公開講座の募集記事とともに掲載予定 ・第2回会議までに記事の土台を作成・共有するので意見を求めたい。 2.市民公開講座について(専門職研修班と合同開催) 日時:令和7年10月4日(土)14:00~16:00 場所:初石公民館ホール 開催方法:対面(参集型)オンデマンド配信については、講師と相談予定 講師:・三浦靖彦氏(岩手保健医療大学 臨床倫理センター長) ・中村 恵氏(みのり訪問看護ステーション) 内容:もしバナゲームの紹介・体験。20グループ程度で実施予定。